

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 四万十市立東中筋小学校		校長	小島 良友	教員数	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計		
		道徳教育推進教師	宮地 里佳 (濱田 千穂)	11		児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数
研究テーマ		「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」～「考え、議論する道徳科」を要として～																		
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証（下半期に向けての改善事項）						年度末（到達目標達成状況）								
<p>本校の児童は、道徳科の授業に対して意欲的な姿が見られる。また、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら道徳的価値について考える姿も見られる。昨年度行った道徳意識調査において、「道徳の勉強はすきだ」に対しての肯定的評価93.3%、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考えている」に対しての肯定的評価が96.7%であった。</p> <p>反面、自尊感情、「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用、地域への貢献の項目についての肯定的評価は低く、児童が自分たちの取組の道徳的価値を十分に理解できていないことや様々な評価に対する受け止め方に差があると考えられる。</p> <p>家庭・地域への情報発信を昨年度同様に行い、外部からの児童への評価を効果的に伝える必要がある。「高知の道徳」の活用方法も工夫していきたい。</p>		<p>◆道徳意識調査の肯定的割合の向上（〔 〕は昨年度末）</p> <p>①道徳の学習に対する意識 95%以上 [93.3%]</p> <p>②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている 97%以上 [96.7%]</p> <p>③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしている 70%以上 [63.3%]</p> <p>④自分には、よいところがあると思う 70%以上 [60.0%]</p> <p>⑤将来の夢や目標をもっている 95%以上 [95.0%]</p> <p>⑥人が困っているときは、進んで助けている 93%以上 [91.7%]</p> <p>⑦地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある 85%以上 [80.0%]</p> <p>◆道徳授業チェックシートの向上</p> <p>①考える必然性のある発問、多面的・多角的に捉えられる発問をしている 授業者 3.0以上 参観者 3.4以上</p>				<ul style="list-style-type: none"> 授業づくり講座を核に、授業の構成、発問、予想される児童の反応等を他の学校の先生方と協議し、森准教授より助言を頂く中で、より深い教材研究や授業研究に繋げることができた。2学期にもう一度授業づくり講座授業研究会があるので更なる研究の深化に繋げていく。 道徳教育推進教師と担任で行っている事前研、授業、事後研のサイクルについては、昨年度から継続して取り組んでおり、2学期も更に授業についての練り合い、中心発問等共通確認をして授業に臨めるようにする。 今年度は、学校全体で価値項目のユニット化を図り取組を進めているが、森准教授や宗崎指導主事のご指導の下、授業や、教育活動全体の中に取り入れより指導の重点化を図っている。2学期も継続して取り組んでいく。 自尊感情の向上について、ありがとう朝会、あいさつ朝会、道徳朝会を設定し教育活動全体での取組を進める中で、児童の頑張りや肯定的に評価し意欲に繋げてきた。1学期に行った児童アンケートの結果、「自分には良いところがある」の肯定的評価が70.6%となり向上が見られた。2学期以降もさらに取組を進めていく。 1学期の道徳参観日において保護者アンケートを取るとともに、家庭で取り組む「高知の道徳」においても家庭での活用を進めるように仕組んできた。2学期には「親子道徳の日」を設定し「高知の道徳」のより効果的な活用に向け取り組んでいく。 						<ul style="list-style-type: none"> 年度末道徳意識調査の結果、①道徳の学習に対する意識の肯定的割合が、98.0%で達成。②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり他の人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている100%で達成。③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしている66.0%で未達成。④自分には良いところがあると思う72.0%で達成。⑤将来の夢や目標を持っている98.0%で達成。⑥人が困っているときは、進んでたすけている。90.0%で未達成。⑦地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある90.0%で達成。 意識調査の中で、未達成の部分は③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしていると⑥人が困っているときは、進んで助けているの2点であった。今年度は、2学期に「親子道徳の日」を設定して、「家庭で取り組む 高知の道徳」を親子で読み記入し、進んでいくことを全校での課題として取り組んだり、普段の道徳授業の中で、家庭学習として教科書を親子で読み、学習後の振り返りについてコメントをもらう取り組み等を行ったりする学級もあったが、質問項目の意識の向上にはつながらなかった。 授業チェックシートの評価項目の中で、①考える必然性のある発問、多面的・多角的にとえられる発問をしている 授業者が3.2 参観者が3.6という結果であった。中心発問や予想される児童の反応、問い返し等の工夫によって、発問がより焦点化され、児童の多面的な発言を引き出すことにつながった。 								
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A（十分できた） B（おおむねできた） C（あまりできていない） D（全くできていない）																	指標達成状況の分析	
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月（中間検証を踏まえての追記・変更可）						達成状況			年度末評価				
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内推進委員会を計画的に実施し、進捗管理を行う。（毎月1回以上） 各学年の年間指導計画、別業に基づく取組みの検証（年3回以上）を行う。 別業が児童の自尊感情を高めるものになっているかを検証する。（年3回以上） 道徳教育推進教師（または管理職）が毎週、全学級の道徳科の授業に参画する。 	<p>①校内推進委員会において、研究の進捗状況を把握し、改善を図る。</p> <p>②道徳教育全体計画（各学年の別業）、年間指導計画の作成及び見直しを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の内容と各教科等の関連について、年間計画に効果的に位置づける。（ユニット化の構築） 道徳科の年間指導計画の評価・振り返り欄への記入（随時） 道徳授業及び他の教育活動の中で児童が効果的に評価を受け、自尊感情を上げているかを検証する。（意識調査5月、道徳ノートの記述等） <p>③道徳教育推進教師（または管理職）が道徳科全時間の授業参観、指導、助言を行う。（指導・評価・共有）</p> <p>④授業者と道徳教育推進教師（または管理職）による事前研→授業実施→事後研のサイクルの定着を図り、授業の質を向上させる。</p> <p>⑤意識調査の検証を踏まえた改善策の検討を行う。その都度、分析を行う。</p>				B	<p>①道徳教育全体計画（各学年の別業）、年間指導計画の実質化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の内容と各教科等の関連について検証する。 道徳の時間の年間指導計画の評価・振り返り欄への記入（随時）及び次年度への見直しを行う。 道徳授業及び他の教育活動の中で児童が効果的に評価を受け、自尊感情を上げているかを検証する。（意識調査9・12月、道徳ノートの記述等） <p>②道徳教育推進教師（または管理職）が道徳科全時間の授業参観、指導、助言を行う。</p> <p>③授業者と道徳教育推進教師が、事前研→授業実施→事後研のサイクルの定着と授業の質の向上を図る。授業力チェックシートの活用も図る。</p> <p>④意識調査の検証を踏まえた改善策の検討を行う。その都度、分析を行う。</p>						<p>○各学年の年間指導計画や別業を効果的に活用し、ユニット化の構築と併せて、学校教育活動との関連を図りながら振り返ったり、見直しをしたりしながら進めることができた。（年3回以上）</p> <p>○全時間の道徳授業において、授業者と道徳推進教師による事前研→授業→事後研を行い、授業記録を取ると共に発問や授業の流れ等について振り返ることができた。</p> <p>●道徳推進教師の病休により、月1回の校内推進委員会の運営ができなかったため、全職員で確認しながら進める方法に変更した。</p> <p>●児童意識調査結果（年2回）をもとに、自尊感情を高めるための様々な取り組みを行い、その都度振り返り、修正をしてきたが、自尊感情の向上にはつながらなかった。今後も学校教育活動全体と道徳教育の関連性を図りつつ、取組を進める。</p>			B				
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の事前研・事後研等を通して、授業力を向上させる。（道徳授業チェック【教師用】3.0以上【児童生徒用】3.8以上） 公開授業研究（4回）、授業づくり講座（4回）、において広く意見をもらい、授業改善に生かす。（授業力チェックシート参観者3.2以上） 他校（研究校）の授業づくり講座、研究発表会等へ参加する。（5回） 	<p>①講師招聘による事前研・授業研究を行う。（2年・3年・4年、内4年は、授業づくり講座及び協議）</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業チェックシートの活用・集計・分析を行う。 <p>②研究授業以外の日々の道徳科授業において、推進教師や管理職が参観する時は、授業力チェックシートを活用し、改善に生かす。</p> <p>③学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研の記録等を残し、改善に生かす。</p> <p>④他校（研究校）の授業研究会へ参加し、授業改善の視点や評価方法についての研修を深める。また、全教員での共有を図る。</p>				B	<p>①講師招聘による事前研究・授業研究を行う。（1年・5年・6年、内6年は、授業づくり講座及び協議）</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業チェックシートの活用・集計・分析を行う。 <p>②研究授業以外の日々の道徳科授業において、推進教師や管理職が参観する時は、授業力チェックシートを活用し、改善に生かす。</p> <p>③学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研究の記録等を残し、改善に生かす。</p> <p>④他校（研究校）の授業研究会へ参加し、授業改善の視点や評価方法についての研修を深める。また、全教員での共有を図る。</p>						<p>○「授業づくり講座」の研究授業（4、6年）では、校種や市町村の枠を超えて多くの先生方に参加いただき、校内研修だけでは得ることができない様々なご意見や、森准教授のご助言をいただき大変有意義であった。【参観者：3.6】</p> <p>○日々の授業では、授業者と道徳推進教師の授業記録によって、板書写真や事後の振り返りを残すとともに、授業力チェックシートを活用し授業力の向上につなげた。【授業者：3.2 児童：3.7 参観者：3.6】</p> <p>○全教職員が他校の授業研究会や研究発表会に参加し、自分の授業づくりに生かすことができた。【7回】</p>			A				
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> 評価の考え方や評価方法を全教員で共有する。（1学期3回、2、3学期1回） 学期末の個人懇談及び通知表において、道徳性に係る成長の様子を保護者に伝える。 学級、学校便りでも成長の様子をお知らせする。 	<p>①全教員で道徳科の評価についての研修を行う。（5月）</p> <p>②校内推進委員会で検討した評価方法を全教員で共有する。（6月）</p> <p>③評価文を交流し合い、評価の視点に合わせて改善を図る。（7月）</p> <p>④学年末の個人面談、通知表において保護者に伝える。一年生の保護者には評価についての説明文書を渡し、理解を促す。</p>				B	<p>①道徳ノートを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握、評価について協議する。</p> <p>②評価文を交流し合い、評価の視点に合わせて改善を図る。（12月）</p> <p>③学年末の個人面談、通知表を通して保護者に伝える。</p>						<p>○評価の考え方や具体的な評価方法について研修や交流を行い、共有することができた。【1学期3回、2、3学期1回】</p> <p>○学期末の個人面談や通知表において、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について保護者に伝えることができた。</p> <p>●学級便りで、道徳についての話題を提供し、保護者と双方向の発信ができた学級もあったが、全学級に広げることが難しかった。</p>			B				
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 全学級公開による道徳参観日を実施し保護者アンケートをとる。（年2回）（出席率93%以上、道徳授業に関する肯定的評価96%以上） 「高知の道徳」を活用した家庭学習に取り組む。（各学期1回以上） 道徳便りを年10回以上発行し、情報発信を行う。 	<p>①全学級公開授業の道徳参観日を実施する。（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート（1回目）を実施し、保護者の意識向上を図る。 地域にも広く参観を案内する。 <p>②全学級で「高知の道徳」を活用した家庭学習を設定し、家庭での活用を促す。（各学期1回以上）</p> <p>③「道徳便り」を定期的に発行し、学校の取組、授業の様子や児童の意見、「高知の道徳」等の話題を発信して、啓発を行う。</p>				B	<p>①親子道徳の日を設定する。（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート（2回目）を実施し、保護者の意識向上を図る。 <p>②全学級で「高知の道徳」を活用した家庭学習を設定し、家庭での活用を促す。（各学期1回以上）</p> <p>③「道徳便り」を定期的に発行し、学校の取組、授業の様子や児童の意見、「高知の道徳」等の話題を発信して、啓発を行う。</p> <p>④四万十市研究推進実践交流会において取組内容を発表する。</p>						<p>○全学級が道徳の授業公開をし、家庭に道徳アンケートを実施することができた。【道徳参観日出席率100%（3家庭は児童共に欠席）、道徳授業に対する肯定的評価（1回目：100%、2回目：100%）】</p> <p>○「道徳便り」を年間10回以上発行し、学校での道徳の取組や話題提供等、情報発信することができた。</p> <p>●家庭学習に「高知の道徳」を活用する取組を学期に1回実施したが、家庭の意識の向上にはつながらなかった。</p>			B				